

果樹試験場かき・もも研究所成果発表課題 要約

1. モモ「つきあかり」の商品性向上のための栽培技術開発

(主任研究員 有田慎)

モモ「つきあかり」の商品性向上のために、9年生の「紀の里白鳳」に高接ぎを実施したところ、接ぎ木後2年目から4年間、高単価が見込まれる15玉級(約260g)以上の果実が4割以上の割合で生産できた。また、適期収穫を可能にするために、果皮色を目視で確認できる果実袋を開発した。さらに、既存の遮光果実袋の上からでも果実の熟度を確認して収穫できる音響振動装置の活用技術を開発した。

2. カキ「中谷早生」の収穫時期が水分ストレス緩和および1-MCP処理による軟化抑制効果に及ぼす影響

(副主査研究員 岡橋卓朗)

カキ「中谷早生」は9月中旬以降に収穫した場合、有孔[®]ポリ[®]個装(以下 有孔ポリ個装)や防湿段ボール(以下 防湿DB)といった水分ストレス緩和と1-MCP処理は同程度の軟化抑制効果が認められた。しかし、収穫初期の8月下旬~9月上旬に収穫すると水分ストレス緩和処理で軟化は抑制できず、1-MCP処理が有効であることが示唆された。

3. モモ・スモモ等の害虫クビアカツヤカミキリに対する薬剤防除効果

(主査研究員 弘岡拓人、副主査研究員 増田吉彦)

クビアカツヤカミキリに対する防除対策を構築するため、薬剤の成虫への直接散布効果並びに薬剤樹幹散布後の成虫に対する殺虫効果・産卵数・食入幼虫への影響を調査し、薬剤の効果の特性より効率的な防除を考察した。